

ルアンパバーン市 (ラオス人民民主共和国)

問合せ 海外戦略課 ☎35-3346



●ルアンパバーン市について

ルアンパバーン市は、ラオス人民民主共和国のルアンパバーン県に位置し、かつてはランサン王国(14世紀-18世紀)の王都でした。

市内には、1560年にセティラート王によって王家の菩提寺として建立された美しいワット・シェントーンをはじめとする寺院が立ち並び、その美しい町並みは、歴史的・文化的遺跡保護の観点から、1995年にユネスコ世界文化遺産に登録されました。

現在でも僧侶による托鉢が毎朝行われています。

2018年4月15日、郡から市に昇格。人口は約8万6千人。

●これまでの交流・経緯

平成28年2月

JICA(独立行政法人国際協力機構)の招へいにより、ルアンパバーン県副知事をはじめとする行政関係者らが来訪し、当市の町並み保全や観光振興策を視察しました。それ以降、JICAが行うルアンパバーン地域開発情報収集・確認調査事業に当市も参画し、ルアンパバーンに対する理解を深める中で、ルアンパバーン郡(当時)との交流のあり方について協議を重ねてきました。

平成28年8月

國島市長がルアンパバーン郡(当時)を訪問し、ルアンパバーン郡長との間で、両都市が、観光、文化財保護、農業、伝統工芸、防災などの分野における協力交流を進めることについて意見交換し、確認書を取り交わしました。その後、JICAと連携して両都市の各分野における人材交流や生活環境改善に関する取り組みを進めてきました。

平成30年8月、平成31年2月

ルアンパバーン県知事やルアンパバーン市長などが来訪し、高山市における住民参加型の町並み保全や環境に配慮した観光振興の取り組みについて、古い町並や乗鞍岳などを視察するとともに、関係者との意見交換を実施しました。



高山市内視察のようす



ルアンパバーンでの陶器製造のようす



ルアンパバーンのため池



●今後の予定

今後、約2年間にわたり、JICAによるルアンパバーン世界遺産の持続可能な管理能力向上プロジェクトに当市も参画し、町並み保全や観光振興に関する技術協力をを行うなかで、ルアンパバーン市との協力交流を進める予定です。世界遺産地区の保全・維持管理については、町並保存に関する専門家の派遣やラオスの行政官・住民代表等の視察受け入れ、また世界遺産地区内「ため池」における水質浄化の実証実験に関する協力等を予定しています。

また、地域の振興については、特産品の高付加価値化や販路開拓のため、陶芸や地酒に関する専門家の派遣やラオスの行政官・事業者の視察受け入れ、また郊外地域の観光・農業振興のため、高山市の事例紹介の協力等を行う予定です。